

災害犠牲者追悼法要営む

福岡教区



福岡教区は5月29日、災害犠牲者追悼法要を福岡教堂（福岡市中央区）で営んだ。130人が参拝した。

正信念仏偈作法をおつとめ（写真）した後、東日本大震災被災地で活動を続ける福岡県春日市・光照寺の郡島俊紀前住職が講演した。

ボランティアとして多い年には100日間活動した郡島前住職は

被災地の現状や課題を話し、「寄り添い、支え合うことは難しく、全うできない。では諦めてしまうのか？ 私には、せずにはおれなかった。ただそれだけ。これからも共々にできることをしていきたい」と語った。

参拝した同県朝倉市・厳浄寺の大内證善住職は「平成29年7月九州北部豪雨で甚大な被害を受けたが、絆が育まれた。人と人のつながりの大切さが、災害に備えることになる」と思いを話した。